

月例会ダイジェスト【71】

日本社会にとってがんが就労、女性の不妊治療と就労が懸案となる中、これらの両立をいかに支援するかが産業保健領域で重要になってきた。今回のさんぽ会は「職域における『がん不妊治療のリテラシー』」をテーマに、講師として順天堂大学大学院医学研究科公衆衛生学講座の遠藤源樹准教授を招いて開催された。コーディネーターは、小島健一氏（鳥飼総合法律事務所）と武藤剛氏（北里大学）。

遠藤氏は初めに「がんリテラシー」について話した。がん全体の生涯発症率は、女性は2人に1人、男性は3人に2人。現役世代の女性の罹患率が高く、特に30歳代では男性の約3倍にのぼるが、約55歳を境に逆転し男性の罹患率が女性を上回る。「がんは万が一ではなく、2分の1。がん治療の進歩により、日本人の半数が、がんと診断されてから第2の人生が始まる、まさに『現代日本はがん時代』である」と述べた。

がんの1次予防に関しては、「喫煙はすべての危険因子となり禁煙が基本」と指摘。食道がんは多量飲酒や熱い飲食物、胃がんはヘリコバクター・ピロリ菌、大腸がんは赤肉（牛・豚・羊）、乳がんの一番の要因は飲酒と説明した。循環器疾患・糖尿病とがんを比較すると、「脳卒中と心筋梗塞、糖尿病による失明等は、血圧や血糖値が高めといった前段階に対する職域の定期健康診断や保健指導で予防できる余地が十分ある。一方、がんは、今まで健康だったのに罹患するという『運』によるところが大きく、早期発見、早期治療という2次予防が極めて重要」と強調した。

産業保健の中で覚えてほしい言葉として、「AYA（アヤ世代：Adolescent and Young Adult）」を挙げた。一般的に15～39歳を指し、女性の患者が多いとした。この世代に特徴的ながんとして、小児がんをはじめ、白血病、胚細胞腫瘍・性腺腫瘍、乳がん、子宮頸がん等があり、進学、仕事、結婚、妊娠、出産、育児との両立が大きな課題である。2次予防のがん検診では、推奨されるのは胃、子宮頸部、乳房、肺、大腸の5つだという。早期発見には「がん特有の症状ではないが、『血便』『血尿』『血痰』が続く場合はすぐに医療機関へ受診するよう保健指導して欲しい」と訴えた。

続いて、「不妊治療のリテラシー」について解説した。「日本人の出生数は1970年代の約170万人から激減し、特に今年はコロナ禍もあって80万人を切るといわれる。この

ままでは日本企業で働く日本人はいなくなる」と懸念を示した。また、生涯未婚率が男性約30%、女性約20%、女性の平均初婚年齢は約30歳となった今、「行政に加え、企業も出産や育児を支援するスタンスが大切」とした。女性の卵巢機能は年齢とともに低下し、特に35歳超では顕著という。「避妊の教育は行われるが、不妊治療や妊孕性については十分に教育されていない。結婚して子どもができないと気づき、不妊治療の資料を集めるにもインターネットなどに怪しい情報も多く、どこで治療すべきかわからない状況」と述べた。そのリテラシーを高めるうち年齢を重ね、より妊娠が困難になるパターンを例示した。

不妊症とは、避妊せず普通の夫婦生活を送り、1年経過しても妊娠しない場合であると、一般的に定義され、その頻度は約15%である。不妊治療は、①タイミング法（排卵日にあわせて性交を促す）、②人工授精（運動性の高い精子を子宮内に注入）、③体外受精・顕微授精（排卵誘発剤による卵巢刺激、卵子を採取する採卵、体外での卵子と精子を受精する体外受精、培養後の受精卵（胚）を子宮内に移植する胚移植）がある。日本は③の体外受精の件数が世界最多である。体外受精は、頻繁な通院が必要であり、費用は自費で、一回あたり40万～80万円かかると説明（2022年4月に保険適用予定）。医療機関の地域格差や頻繁な通院のために、職場での突発休・遅刻・早退、ハラスメント、経済的負担、メンタルヘルス維持を課題として挙げていた。中でも「不妊治療をしていることを職場に伝えるカミングアウトに悩む女性は多い。そもそも、学校教育で妊孕性（にんようせい：妊娠しやすさ）や不妊治療などの教育が不十分である」と語った。

遠藤氏総監修のホームページ『PEARL（パール）～妊娠・不妊治療・不育症リテラシー教室/就労支援・妊活支援企業アクション～』が2021年3月下旬に開設される。「サイレント・マジョリティーである不妊治療中の社員を、企業や産業保健スタッフ、社会が支援するために、妊孕性・不妊治療の最前線を伝えていきたい」と力を込めた。

後半の質疑応答では、「不妊治療の特殊性を考えると不妊休暇をきちんと企業に認めてもらうのが良いのか」との問いに、遠藤氏は「フレックスタイム制度や不妊治療休暇などがあれば、不妊治療と就労を両立することが可能。シフト勤務の社員はカミングアウトせざるを得ない場合が少なくなく、対応可能な企業から、不妊治療と就労の両立をサポートする職場環境などを整えてほしい」と答えた。

さんぽ会の詳細は下記サイトをご覧ください。

- ホームページ <http://sanpokai.umin.jp>
- FB ページ <http://www.facebook.com/sanpokai>